小鯖 健康ウォーキング・マップ

大内中学校

⑪脱隊諸士招魂碑

⑩柊神社のヤマモモ

柊

262

旧萩往還

大師原のふじの木

小鯖針の木公園

鯖　地

典礼会館

⑦泰雲寺

27

稔　畑

のはなショウブ→
自生地→

菅内団地

花和里のマキノキ

⑫景好寺

⑧馬頭観音

鳴滝公園

鳴　滝

石　畠

百合ヶ丘団地

⑥吉岡一味齋遭難之地

正田山の浄水槽

小鯖小学校

交流センター

八反田

中　村

カヤの木

⑭洞海寺

伊藤音市翁功績碑交流センター

禅昌寺団地

①街道松

②禅昌寺

21

⑮小鯖の板碑

⑤天保一揆の石碑

旧萩往還

上鯖山

梨羽

⑮小鯖八幡宮

5区公民館

三本松団地

262

美由岐松

郡境塚

⑯鰐石十郎兵衛翁彰徳碑

トンネル

明治天皇行幸御小休所

① 萩往還

萩往還は、江戸時代のはじめ萩城と毛利氏の水軍根拠地である御船倉（防府市三田尻）を結ぶ、参勤交代の道として整備された街道です。
しかし、中国山地をこえるこのルートには、険しい坂や峠が多く、道行く人たちにとっては苦労の多い旅であったと思われます。
途中には、石畳が敷かれ、御駕籠建場や御茶屋が設けられ、現在復元された所もあります。
鯖山峠は、市街地が一望できる見晴らしのよい所で、当時は二軒の茶店が営業し、旅人の疲れをいやしていました。頂上に登る峠道の左側には、享和二年（1803）に建てかえられた四角柱の「郡境の碑」があります。

② 禅昌寺

禅昌寺の開創は　室町時代　応永三年（1396）で開山は慶屋定紹禅師　開基は大内義弘公である
開創当時は禅昌寺を約八十の末寺小庵がとり巻き千人近い修業僧が居て　西の本山　西の高野と呼ばれ一大法城の観を呈していたという
大内公が財源としてお寺に三千石の知行を寄進しようと申し出たが、開山禅師は「安定は堕落のもと」と之を固辞して受けず代りに修行僧が毎年春秋二期防長二州を托鉢することを申請して特許された

② 禅昌寺山門

応永三年（1396年）当時の開創当時に建立されたものを独住九世門巌禅師の代（1730年）に修造したもので　壮大かつ簡素全国でも珍らしい様式である。
山門上の偏額「亀岳林」は明の高僧心越禅師（徳川光圀公が師事した人）の書である。山門の向って左に聳える山を亀尾峯といいそれにちなんで多くの修業僧のいたこの叢林を亀岳林とよぶ。

③ 天保大一揆発祥の地

江戸時代の後期、この附近に皮番所（稲穂の出る時期に牛馬の皮の持ち歩きを監視するところ）が、置かれていた。
ところが、天保二年七月（1831年）防府、中関の某商人が、この禁を犯して、ここを通過しようとしたことに端を発して、瀬戸内一帯の農民層を中心に大一揆が発生した。これを「天保大一揆」と、呼んでいる。

⑥ 吉岡一味斎遺跡

吉岡一味斎は八重垣流を編み出した剣法の達人で毛利藩剣道指南役であった。吉岡一味斎には「その」という美しい娘があった。同藩の京極内匠が嫁にもらおうとしたが、一味斎はその人物が邪悪であるので許さなかった内匠はこれを恨みに思った。たまたま一味斎は殿から岩国の永興寺の普請奉行を命ぜられていたので所用で萩に出かけた。それを知った内匠は、一味斎の帰路をこの小鯖白坂の地で待ち受け、火縄銃で暗殺した。一味斎の妻は娘を連れて夫の仇京極内匠を探し、ついに英彦山毛谷村の百姓六助の助太刀によって小倉城下で本懐をとげた。この物語が潤色されて浄瑠璃の彦山権現「誓助剣（ちかいのすけだち）」となり文樂でも上演されている。

⑦ 泰雲寺

泰雲寺は始め闢雲寺（びゃくうんじ）と称し、現在地より約五キロ奥の檢畑、葦谷の地にあった。時の藩主大内盛見公が薩摩の石屋真梁禅師を招じて応永十一年（1404年）に開創された。その後永享元年（1429年）大内教弘公の時代、当山三世覚隠永本禅師は現在地に移転された。防長五刹の一つに数えられ、江戸時代には防長二州僧録司がおかれた。

⑧ 馬頭観音（ばとうかんのん）

近世以降は国内の流通活発化し、馬が移動や荷運びの手段として使われることが多くなった。これに伴い馬が急死した路傍や芝先（馬捨場）などに馬頭観音が多く祀られ、動物供養塔としての意味合いが強くなっていった。このような例は中馬街道などで見られる。なお「馬頭観世音」の文字だけ彫られたものは多くが供養として祀られたものである。

⑩ 柊神社（ひいらぎ）

この社は柊大明神と称し、境、柊の二地区の鎮守で、創立年代は不明ですが、宝暦八年（1758）長州藩主毛利宗広の二女誠姫がこの神社を再興したものです。
昔から婦人病の者が鳥居を奉納して祈れば霊験があらたかであると伝えられ、遠近から婦人の参詣者が多かったそうです。

⑪ 脱隊諸士招魂碑

明治三年新政府の兵制のあり方を批判して旧奇兵隊士などの諸隊の暴動があった。その勢力はさかんで、山口の藩庁をかこみ要求をとおそうとしたが、常備軍によって平らげられた。この暴動を脱隊騒動というが、その首謀者はとらわれ、ここの柊にあった。獄舎に入れられ斬に処せられた。

⑫ 景好寺

開基　大室休円　縁起（嫡男　穴戸善左衛門景昭　寛永18年（1641））49才で、国法の免許を蒙り、父の俗名によって景好寺と称し戒名によって古剣山と号した。しかしまだ公称するには至らなかった。その後29年を経て寛文9年5月16日寺号免許があった又休円は由緒ある家系の人というので本山13代教興院殿良如光円大僧正の代に木仏尊形免許を蒙った。
沿革　寛文9年7月5日西本願寺より寺号公称を許され延宝3年（1675）2月1日をもって公寺として出発の運びと成った。その時休円建立の寺院は中河内（鳴滝の小字として今も残る。）という所にあったのを二世了哲の代、元禄17年（1704）3月2日に現在の寺地に移転し本堂・庫裡等を再建した。又、この代に天和2年9月梵鐘を新鋳した。

⑭ 洞海寺のカヤの木

このカヤノキは高さ22メートル、周囲4.5メートルの典型的な円錐状の樹形である。カヤノキはイチイ科に属する針葉樹で温暖帯に広く野生している。県下では海抜400メートルより低いところで見られるが、このような大木はほとんど残っておらず、独立樹として県内で最大である。

⑮ 鰐鳴八幡宮本殿・拝殿

通称小鯖八幡宮と呼ばれている。祭神は八幡大神（応神天皇）を主神とし、仲哀天皇・神功皇后を配祀している。
社伝によれば平安時代中期、大分県の宇佐八幡宮から勧請されたという。神霊を宇佐に迎えに行っての帰途、山口湾から椹野川をさかのぼり、山口の鰐石に上陸したとき、ここまで従いきていた鰐が別れを惜しんで鳴いたという故事によって鰐鳴八幡宮という。
本殿の建立時期は明治二八年の取調書の中に「貞亨三年（1686）」九月改造の記載があり、細部様式からこの時期と思われる。向拝付三間社流造りである。

⑮ 小鯖の板碑（おさば　いたひ）

小鯖のこの板碑は自然石で、高さは約2メートルある。正面上部に三つの梵字があり、上が阿弥陀如来、右が聖観音左が勢至菩薩である。下に貞治六年丁未九月廿六日と刻してあるが貞治は北朝年号で、六年は南朝の正平二十二年（1367）に当る。
山口県下には記年銘のある板碑は少なく市内では最古唯一の板碑である。

⑯ 鰐石十郎兵衛翁彰徳碑（わにいしじゅうべい）

鰐石十郎兵衛翁彰徳碑とその屋敷跡（字渡瀬）
江良堤を苦心経営の後遂に築きあげた有名な小鯖の大庄屋鰐石十郎兵衛（五世）は文化十三年（1816）に死んだ。昭和九年小鯖第三・四・五区の戸主会が連合して百二十回忌の法会を執行し、その記念行事として生誕地を記念するため石碑を渡瀬の鰐石屋敷傍（米本民治宅西側近接地）に建て、碑表に「鰐石十郎兵衛翁彰徳碑」と刻した。

スタートは、交流センター（往復）

- 禅昌寺、鯖山郡境塚コース……約8.8km
- 小鯖八幡宮、鰐石十郎丘衛コース…約8.2km
- 泰雲寺、脱隊諸士招魂碑コース……約10km
- 景好寺、市記保存樹「マキ」コース…約4km

製作：地域づくり協議会　健康福祉部会（H24.3.2000部）